



大蔵放館

荒俣宏の 大蔵放館

Aramata Hiroshi's
Grand Treasure Trove
MANGA-ful

Hibiya Library
& Museum

千代田区立日比谷図書文化館特別展



荒俣宏「あらまたひろし」
作家・京都国際マンガミュージアム館長。
1917年東京生まれ、慶応義塾大学卒業後、
10年間のサラリーマン生活のち独立。
百科事典の編集助手をしながら書い、小説・漫画雑誌が
ベストセラーになり、日本キナンド大賞受賞。世界大博物館で、
サンポート学芸賞受賞、神祕学、博物学、風水等多分野にわたり
精力的に執筆活動を行い、その著書、訳書は350冊あまり、
稀覯書のコレクションとしても有名である。

Aramata H
Grand Tre
MANGA-ful
Hibiya Lib
& Museum

2020年10月16日[金] — 12月16日[水]

千代田区立日比谷図書文化館 1階特別展示室

開室時間〈月・木・土〉10時-19時〈金〉10時-20時〈日・祝〉10時-17時(入室は開室30分前まで) | 休館日 10月19日(月)/11月16日(月)

特別展観覧料 一般300円/大学・高校生200円/千代田区民・中学生以下、障害者手帳などをお持ちの方および付添の方1名は無料(住所が確認できるもの、学生証、障害者手帳などをお持ちください。)

主催 千代田区立日比谷図書文化館 | 企画協力 京都国際マンガミュージアム/京都精華大学国際マンガ研究センター

荒俣宏の 大マンガ図書館

Ananya Hirohiko's
Grand Treasure Trove
Manga Library
Hibiya Library
& Museum

NOTICE!

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、予告なく予定を変更することがあります。ご来館の前に、ホームページ等でご確認ください。また、入場および観覧に際し下記対策等にご協力ください。

- ・館内、展示室内では必ずマスクを着用ください。
- ・ご入館時には手指の消毒、職員による検温、入館票のご記入(貸出券番号)または「名前と電話番号」をお願ひします。
- ・混雑状況によっては、一時的に入場制限をさせていただく場合があります。

【展示構成】

漫画と人生

荒俣館長と荒俣家の歴史を、荒俣少年が「影響を受けたマンガや当時の絵画作品、青年時代のマンガ作品や同人誌などの現物資料で紹介しします。

怪奇文学大山脈

高校時代には、日本にはほとんど紹介されていなかった海外の怪奇・幻想文学を洋書で読み漁っていた荒俣館長。大学時代における、自ら挿絵を付けた翻訳や評論等が掲載された同ジャンルの同人誌などを紹介。

図鑑の博物誌

博物学者としての荒俣館長の名を確固たるものとした「世界大博物図鑑」シリーズ。この大著などにも登場する18-19世紀の美しい博物画や、少年時代からすでに生物学者であったことをうかがわせる精緻な魚類観察日記などを紹介。

アラマタ美術誌

一般的には「アート」とはみなされてこなかった、ファッション画やピンナップガールのイラスト、大衆小説の挿絵などのアラマタコレクションを、貴重な版画や原画などで紹介。

奇っ怪紳士録

いま、荒俣館長が最も注目している「奇っ怪紳士」のひとりである三田平凡寺(みたへいぼんじ、1876-1960)を紹介。大正時代に自宅にローラースケート場を作ったり、へんなモノコレクターたちの団体「我楽他宗」をオーガナイズした稀代の「趣味人」として、知る人ぞ知る存在だった平凡寺。その孫でもあるマンガコラムニスト・マンガ研究者の夏目房之助氏ら御遺族からお預かりした膨大な資料から、その一部をお披露します。

帝都物語

荒俣館長の名を世に知らしめた長編小説にして代表作「帝都物語」をテーマにしたコーナー。同作を原作としたマンガ、イラスト等や、実相寺昭雄(じっそうじあきお)監督による映画版『帝都物語』の関連資料を展示します。

稀書自慢

稀少書のコレクターとしても名高い荒俣館長のレア本コレクションから、選りすぐりの逸品を紹介する、東京会場オリジナルのコーナーです。手彩色の豪華本や大型本など、煌めく世界へと誘います。



【関連講座(日比谷カレッジ)】

荒俣宏講演会 帝都物語異録

作家・荒俣宏の名を世に知らしめた長編小説にして代表作「帝都物語」。東京壊滅を目論む魔人とその野望に立ち向かう人々の100年にわたる攻防を描いたこの現代の奇書を通して、ここ「帝都」東京で、作者自身が縦横無尽に語ります。

講師 荒俣宏 | ゲスト 神田神社宮司 清水祥彦 | 日時 10月29日[木] 19:00-20:30 (開場18:30)

会場 千代田区立日比谷図書文化館 地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)

定員 60名(事前申込順、定員に達し次第締切) | 参加費 500円

申込方法 ホームページの申込みフォーム、電話(03-3502-3340)いずれかにて、
1: 講座名/イベント名、2: お名前(はみかひ)、3: 電話番号をご連絡ください。

※小学生以下のお子さまが参加される場合、保護者の同伴が必要です。

(同伴者の方にも参加費が必要です) | 申込開始日 9月7日[月]

千代田区立日比谷図書文化館 (日比谷公会堂より)

〒100-0012 東京都千代田区日比谷公園1-4

Tel. 03-3502-3340 (代)

https://www.library.chiyoda.tokyo.jp/hibiya/

アクセス | ・都営地下鉄三田線「内幸町駅」A7出口より徒歩3分 | ・東京メトロ千代田線「霞ヶ関駅」C4出口より徒歩3分 | ・丸の内線・日比谷線「霞ヶ関駅」B2出口より徒歩3分 | ・JR「新橋駅」日比谷口(SL広場)より徒歩10分 | ※当館には専用の駐車場がございません。公共交通機関をご利用下さい。



荒俣宏「あらまたひろし」
作家 京都国際マンガミュージアム館長。1947年東京生まれ。慶応義塾大学卒業後、10年間のサラリーマン生活ののち独立。百科事典の編集助手をしながら書いた小説「帝都物語」がベストセラーになり、日本SF大賞受賞。世界大博物図鑑で、サントリ学芸賞受賞。神秘学、博物学、風水等多分野にわたる精力的に執筆活動を続け、その著書訳書は300冊あまり。稀書コレクターとしても有名である。

「マンガラクタ」——マンガを含め、「だれかに発見されないかぎり、ずっとゴミくず同然に埋もれてしまふ」ガラクタこそを面白がる、という価値観を示した造語。このことばを考え出したのは、作家の荒俣宏氏です。
荒俣氏が館長を務める京都国際マンガミュージアムでは、自身が企画、プロデュースする「大マンガラクタ館」という小展示シリーズを展開。「世の中に忘れられたマンガの先祖たちを掘りおこし、現代マンガのルーツをさぐる」ということが行われてきました。
本展は「大マンガラクタ館」の特別拡大版として企画され、同ミュージアムで今夏、新型コロナウイルス感染拡大による「無観客観覧会」期間を経て、満を持してお披露目されました。そしてこの秋、東京日比谷へと場を移しての開催となります。多くの人が見向きもしなかったモノ、コト、ヒトを情熱的に蒐集し、評価してきた、ある意味子ども頃の頃から「大マンガラクタ館」の館長だったと言えるアラマタさん。「荒俣宏の大大マンガラクタ館」は、その人生と好奇心の拡がりを、自身のコレクションや創作物などで紹介する展覧会です。